

小田原

広

報

まちづくり情報誌

2002

8/1

NO.824 毎月1日発行

毎日が発見
おだわらの海



ここに小田原の海に魅せられた男がいる。

小田原と言えば、海の幸の宝庫。

アジをはじめ、新鮮な魚を求めて多くの人がやってくる。

しかし、小田原の海の魅力は、鮮魚だけではない。

まだまだ奥が深い、小田原の海の神秘の世界を紹介しよう。

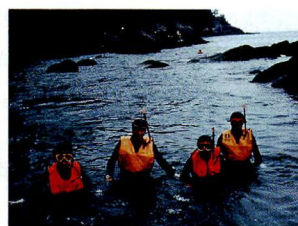
海の神秘に魅せられた 水中写真家

～タツノオトシゴとの出会い～

二科展入選作品

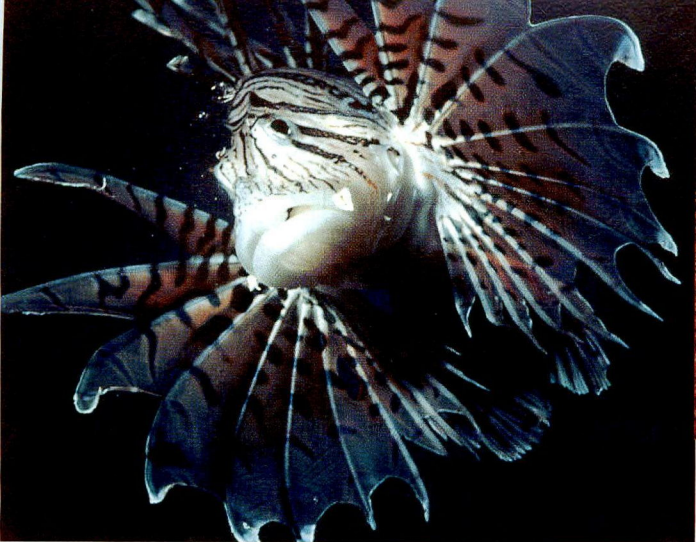


水中写真家・氏家一政さん



市内海岸線近くに居を構える水中写真家。大手写真メーカーに勤めていた氏家さんは、会社の先輩のすすめで30歳にして初めてダイビングを体験した。そこには見たことのない神秘の世界が彼を待っていた。「まるで海底一面にカラフルな花が咲いているようだった。そのとき思ったんだよね。本格的な水中写真を撮りたいって」。この日を機会に、氏家さんの水中写真家としての活動が始まった。

初めてのダイビング体験



ミノカサゴ



スズメダイの夫婦

イソギンチャク

水中カメラ機材の考案

今ほど水中撮影のための機材が充実していない昭和40年代。当時はカメラに一回ずつ使いきりのフラッシュ電球を腰に30数個ぶら下げながらのダイビングだった。氏家さんは会社の同僚とマリンスポーツクラブを結成し、水中撮影のための技術を研究していった。次第にその技術を極めていった氏家さんたちは、次々と写真コンクールに入賞。さらには、良い機材を求め、カメラグリップやストロボなども独自に研究した。そんなクラブ



の活動を知った会社から水中カメラの試作品のモニターを依頼され、氏家さんたちは会社の要望に答えるべくテストを繰り返し、いくつかの改良点を指摘、カメラで撮った写真の提供も行った。

しかし完成品を2機種ほど販売したところで、開発コストや採算の問題などから、会社は水中カメラの販売を中止してしまった。

小田原の海底で大発見

その後も水中写真を撮り続けた氏家さんに、忘れられない出来事があった。氏家さんがダイビングをするポイントには、主に真鶴町。ダイビングの醍醐味は、カラフルな磯花や岩場などに集まる魚の織りなす風景であり、近隣でこの条件を満たすのは真鶴町というのが世間の常識でもあった。小田原の海はほとんどが砂場で、魚が隠れる岩場がないた



タツノオトシゴ (三軌会展会員としての出品作品)

め、絶好のスポットというわけではない。しかしある夏の夜、小田原で岩場がある早川の海に潜つてみると、そこにはウミトサカやムチャギなどの「磯花」やイソギンチャクが一面に咲き誇っていた。さらに次の瞬間、絶句した。なんと目の前に「タツノオトシゴ」が姿を見せたのだ。氏家さんがずっと撮りたかった写真、それこそが「タツノオトシゴ」だった。

感動とともに生きるべし

写真家を目指す者にとって登竜門とも言えるコンテストがいくつかある。有名なところで「二科展」(二科展)、三軌会展(三軌会展)、「JPS展」などがあるが、そこでも氏家さんはすべてに入賞を果たした。いろいろな人からプロの写真家への道を薦められたが、氏家さんはアマチュアの道を選んだ。その理由をこう話す。「一緒にやってきた会社の仲間とずっとやりたかったしね。それに小田原から離れたくなかった。ここは自然が素晴らしいし、人も素晴らしい。自分にとって最

高の場所だから」。

小田原は何といっても、念願のタツノオトシゴを見させてくれた海なのだ。「感動することが何よりも大事。自分が感動しないのでシャッターを押した作品は、決して人を感動させない」。持論であるこの言葉は、タツノオトシゴからの贈り物かもしれない。

そんな氏家さんは、昨年定年を迎えた。もう水中写真と離れて久しい。しかし、月に一度は会社の現役の人たちと交歓会を開き、講師として作品の批評、写真技法などを話し、楽しく充実した時を過ごしている。このとき彼はみんなに話す。「目標を大きく持って、井の中の蛙にならないこと、自分の技術を磨いて出品する作品はすべて全国展をめざせ!」と。

早川の海は今でもきれいだし、タツノオトシゴは今でもいる、と楽しそうに話す氏家さん。まだまだ深い、知られざる小田原の魅力が海底の世界に眠っているかもしれない。

市長 顧問のお二人には、4月の就任から3か月経ちましたが、どのような感想を持たれましたか？

吉田 小田原市民の意識は非常に高いと思います。もはや従来の「減量型」行革では市民に満足されないでしょう。サービスの提供方法や質を見直す構造改革型の行政改革が望まれています。

下村 そうですね。行革とは「新しいサービスを生み出す」と、そして「今まで提供していたサービスの生み出し方や受け取り方を変える」ことです。「新しい」変わる」がキーワードです。

吉田 これからは市民も行政も自己決定・自己責任が求められます。行革の本丸とも言えるべき人事・財政・企画を大胆に切り替え、職員の体質はもちろん、場合によっては市民の体質をも変えていく必要があります。

下村 敷かれたレールを走るのではなく、例えてみれば海図を頼りに航路を決めるように、行政には社会情勢や市民意識の変化を考慮するための「マーケティング」が必要です。日本で初め



てマーケティングをした二宮尊徳は、小田原藩の米の備蓄量を算出するために地域の人々の食生活や排泄物まで調査しました。尊徳を輩出した小田原の人々には、もともとマーケティングの感覚はあるはずです。問題は、結果をどう生かすかです。

市長 市役所の職員がどう変わるかという点には市民も強く着目していますので、具体的に進めていくことが大事です。これまで「風通しのよい職場づくり」や「全職員の接遇研修」「情熱新市役所宣言」など、職員の意識改革へ向けたさまざまな取り組みを行い、職員もこれによく応えてくれています。それでもまだ評価

されない部分もあるのが事実です。そういう意味で、今後、行政は具体的にどのような取り組みにしたいと思いますか？

吉田 レベルの高い小田原市民を満足させるためには、職員が市民を顧客つまり「サービスを受ける権利のある人」「納税者」としてとらえて成果を出し、さらに成果を市民に公表・評価してもらう仕組みを作って通常業務の

[行政経営担当顧問、市長と語る]

新しい行政改革に向けて

本格的な地方分権社会を迎えた今、国際化や少子・高齢化など、多様化する課題に向けた地方自治体の役割が大変重要になっています。こうした時代の動きに適確かつ柔軟に対応するため、これからの行政改革はどうあるべきか2人の行政経営担当顧問と市長に語ってもらいました。

☎行政経営室 ☎33-1305



小澤市長



下村則雄顧問



吉田民雄顧問

中で常に顧客を意識する環境にしないと根づかないと思います。
下村 市民が何を望み、行政サービスなどの供給とどのくらいギャップがあるのか、実はこれは明確にはわかっていません。もともと小田原は住みやすい土地柄で、良質な市民生活を作る環境はあるはずです。それでも市民が満足していないのなら、それはなぜか、ギャップをどのように埋めればいいのかを、至急調査して話を進めたいと思います。

吉田 市民との協働の点では、市民にも自己決定・自己責任が求められるわけですので、小田原市としてそれをどう形作っていくのかが重要なテーマだと思います。

市長 行革を突き詰めていくと「市民の目線」に行き着きます。行政の独善的な改革に陥らないように、常に市民ニーズと行政改革との間を反復する見直し作業が必要だと思います。

同時に、職員の意識改革をどう高めていくか、私が職員の努力に対してどう報いていけるかを考えて、私たちの意識改革が市民の期待に答えられる仕組みを作りたいと思います。今後、顧問のお二人にお力添えをいただながら、市政経営会議のような会合を定期的に開いて、行政の構造改革に取り組みたいと思います。

今日はありがとうございました。

エンジン始動！ 行政改革！！

「おだわら改革宣言2002
実施方策」決定

行政改革の具体的な施策を示した「おだわら改革宣言2002
2実施方策」を策定しました。5つの成果目標を定め、14、
18年度を重点推進期間とします。

問行政経営室 33 1 3 0 5

行政改革四箇条

一、市民の目線で考えよう

- ・市民は何を望んでいるか
- ・市民は現状に満足しているか

二、市民の納得のできるサービスを考えよう

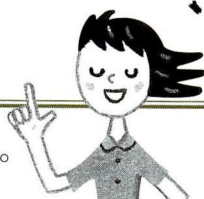
- ・何のために、誰のためのサービスなのか
- ・市民満足度を高めるためにどうすべきか
- ・サービスの質、量、タイミングはどうなのか

三、常に成果を意識し、検証してみよう

- ・できるだけ安いコストで目標に向けた成果を出しましょう
- ・実施の結果を検証し次のステップに役立てましょう

四、意識改革は気合を入れて進めよう

- ・思い切り新たな視点で見直しましょう
- ・施策や事務事業には付加価値つけて考えましょう



朝礼などで唱和し、実践に努めます。

5つの成果目標

実施方策では、確実な実施を目指して、施策の目標水準・スケジュールを定めました。なお、取組の概要と年次計画を極力明記するとともに、数値目標を設定して取り組みます。

1 地域の活性化

市民の皆さんと協働して、地域コミュニティやNPO（非営利組織）の形成、他市町との広域連携など、地域社会や経済の活性化を目指します。

2 財政運営システムの見直し

行政運営に成果重視の考え方を取り入れ、厳しい財政状況の下で、人・物・予算を効果的に投入する仕組みを検討します。

3 職員の意識改革

社会・経済情勢の変化や、市民ニーズの多様化に対応するためには、まず職員が変わらねばなりません。職員の創意と意欲を引き出すために、目標管理の仕組みなどを導入します。

4 主体的自治の確立

独自の政策立案を強化するとともに小田原市としての自主性を確保し、市民の皆さんとの協働によるまちづくりを進めます。

5 市民満足度の向上

情報公開により市民の皆さんとのコミュニケーションを強化するとともに、行政に何を望んでいるのかをきちんと認識し、サービスの質を向上させます。

主な取組内容

（14年度の主な実施事業）

●（仮称）市民活動促進条例の制定
NPOの活動促進のための基本的な考え方、事項などを定めた条例を制定し、市民活動の促進を図ります。

●市民満足度・重要度調査の実施

アンケート調査を行い、市民の皆さんが行政の施策に対し何を望んでいるのか、どのような施策を重要と感じているかを把握し、施策に反映します。

●公文書公開条例の見直し

電子情報も公開対象とするように条例を見直し、市民の皆さんに行政情報をより広く提供します。

●窓口サービス向上部会の設置

窓口業務改善を全庁的に行い、利用しやすい市役所を目指します。また、出口調査を行い、市民の皆さんの声をサービス向上に反映させます。

各課に「職場のモットー」を掲示しています！

市役所にお越しになったら、ぜひ窓口カウンターをご覧ください。

そこには、仕事に対する取組姿勢や、市民の皆さんに接するときの心がけを「職場のモットー」として掲示しています。

職員の改革への意欲を感じ取っていただければ幸いです。

（15年度以降の主な取組）

●行政評価システムの導入

「行政評価システム」を導入し、施策に目標値を定め、その成果から施策内容を見直す仕組みを作ります。

●民営化・外部委託の推進

サービスの提供方法を見直し、行政サービスの質の向上とコストの削減を図ります。

●市民参加による政策形成の推進

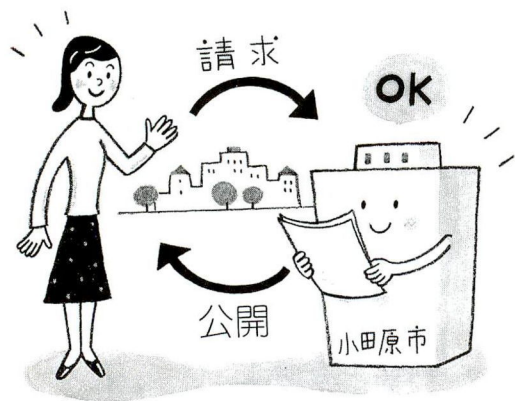
パブリックコメント（条例などの政策決定前に、行政案を公開し、広く意見を募る制度）の検討など、施策に市民の皆さんの意見を幅広く取り入れる仕組みを作ります。

●（仮称）総合窓口の開設

市役所本庁舎に（仮称）総合窓口を開設し、住所異動の届出に伴う手続きなどが1ヶ所で行えるようになります。



公文書公開・個人情報保護制度の運用状況について



市民のみなさんの請求に応じて、市の公文書を公開するものが公文書公開制度であり、市が管理している個人情報を開示するものが個人情報保護制度です。

これら2つの制度の平成13年度運用状況を報告します。

☎行政情報センター ☎33-1288

公文書公開制度の運用状況

平成13年度中に公文書公開請求を行った方は39人、請求件数は76件でした。主な請求内容と処理状況は次のとおりです。

主な公文書公開の請求内容と処理状況

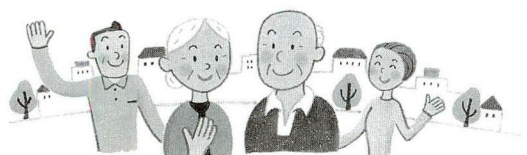
	請求内容	担当課	決定	非公開理由
1	下水道施設等の浚渫及び収集運搬業務委託契約書(平成13年度分)	下水道総務課	一部公開	法人等の情報
2	介護サービス提供事業者より提出された施設サービスの事故報告書	高齢介護課	一部公開	個人・法人等の情報
3	小田原市立小学校保健日誌・安全点検表	学校保健課	一部公開	個人情報
4	境界確認申請	建設総務課	公開	—
5	教科書採択に係る教育委員会会議録	教育総務課	公開	—
6	都市計画住宅市街地の開発整備方針	都市計画課	公開	—
7	調理業務の民間委託導入を決定した資料	学校保健課	一部公開	審議・事務事業の情報
8	小田原駅東西自由連絡通路関係各社への支払額を証明する請求書等の書類	広域交流拠点整備課	一部公開	法人・事務事業の情報
9	個人情報不訂正決定処分に対する異議申立に係る決定書	学校教育課	非公開	個人・事務事業の情報
10	議会費で行う、宿泊を伴う国内、海外視察に関する一切の資料	議会事務局	一部公開	個人情報
11	市長交際費明細及び支払額調書兼領収書添付書類	秘書室	一部公開	個人・法人等の情報

個人情報保護制度の運用状況

平成13年度中に個人情報の開示の請求を行った方は10人、請求件数は15件となっており、個人情報の訂正の請求はありませんでした。主な請求の内容と処理状況は次のとおりです。

主な個人情報の開示の請求内容と処理状況

	請求内容	担当課	決定	非公開理由
1	介護保険認定調査票、主治医意見書及び介護認定審査会会議録	高齢介護課	開示	—
2	小田原市立小学校在学時の児童指導要録	学校教育課	開示	—
3	小田原市立病院通院記録一式	医事課	開示	—
4	〇〇に関する対応経過書及び「道路後退について」の起案、回答文書	建築指導課	開示	—
5	学校事故報告書にかかわるすべての文書、写真等	学校保健課	不存在	—
6	教育委員会定例会及び協議会議事録	教育総務課	一部開示	他の方の個人情報を含むため



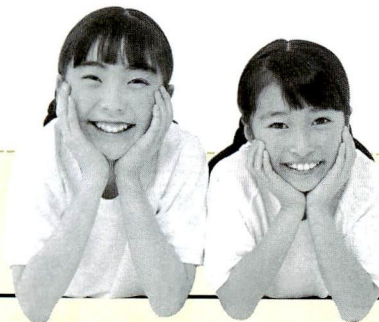
※平成13年度の公文書公開・個人情報保護制度の運用状況の詳細をまとめた報告書を、行政情報センターで配布しています。

また、市のホームページでも提供していますのでご覧ください。

アドレス http://www.city.odawara.kanagawa.jp/gyousei_soumu/

教育、私はこう思う！

静かなる教育論議にぞくぞくご意見。



教育、私はこう思う！
vol.9

夏休みは生活が乱れがちになることも多いようです。開放的な気分となるあまり、非行に走らないように強い意志を持ちましょう。

問教育総務課 ☎33-1671

テーマ「非行防止と教育」

いろいろな意見を聞いて皆さんが感じたり話したりすることも、教育論議です。

非行について

子どもが悪い道に走るのは、それなりの理由があると思います。子どもは、家庭・学校・地域などでいろいろなサインを出しており、それらを大人が気づくようにしなければなりません。そして、他人の子どもが間違っただけをしていたら、周りの大人が自分の子どもと同じように、しかってほしいと思います。



が平日授業を受けていなければいけない時間帯にたむろしていたので、注意を促してほしい。また、この子らの親にも連絡をし現況を理解してもらうべきであると思います。

健全な心の醸成について

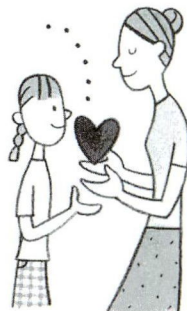
最近のテレビやゲームなどで人が殺傷される場面が多く登場していますが、それらに影響を受ける多感な時期の子どもたちに、命の大切さや人への優しさ、思いやりを教えていく必要があると思います。



にします。喫煙だけでなく、未成年者の飲酒も増加しているので、周りの大人たちも何か考えなければと思います。

大人たちの反省について

子どもたちは、いじめ・不登校・非行などさまざまな問題を抱えています。大人たちは、経済的な豊かさを追求するあまり、心の豊かさ、他人に対する優しさ、思いやりの心が足りなくなってしまったのでは。このような姿を子どもたちは敏感に感じ取り、影響を受けているのではないかと思います。大人たちは反省すべきではないでしょうか。



授業を受けない生徒について

山王川河口のテトラポットで中高生



未成年の喫煙・飲酒について

高校生が制服のまま登下校中に歩きながら喫煙する姿を、最近特に多く目

いかがででしょうか。非行に走る子ども本人が悪いのはもちろんですが、子どもを取巻く家庭や学校、地域などにも、子どもたちを育てていく社会的責任がある以上、非行防止についてもそれぞれに責任があるのではないのでしょうか。将来を担う子どもたちを、小田原の社会全体で育てていきましょう。皆さんもこのコーナーを読んだら、その思いを忘れないうちに、近くの人に話してみましょう。それが教育論議への第一

歩となるのです。

支所・連絡所などに置いてある「意見カード」でのご意見もお待ちしています。小田原市ホームページの「小田原市教育ネットワーク・静かなる教育論議投稿フォーム」でも受け付けています。

投稿フォームアドレス

<http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/silent/>



丹精こめた農産物を 直売しています

今、新鮮で安全な野菜が注目されています。小田原産直研究会は、多様化する消費者ニーズに対応するため、新たな流通経路や販売拠点を開拓し、地場農産物の販路拡大・供給体制・宣伝を促進する会です。農家の直売は生産者の顔も見ええるから安心して利用できる、と大変喜ばれています。

問農政課 331494

ぶどうのもぎとり体験

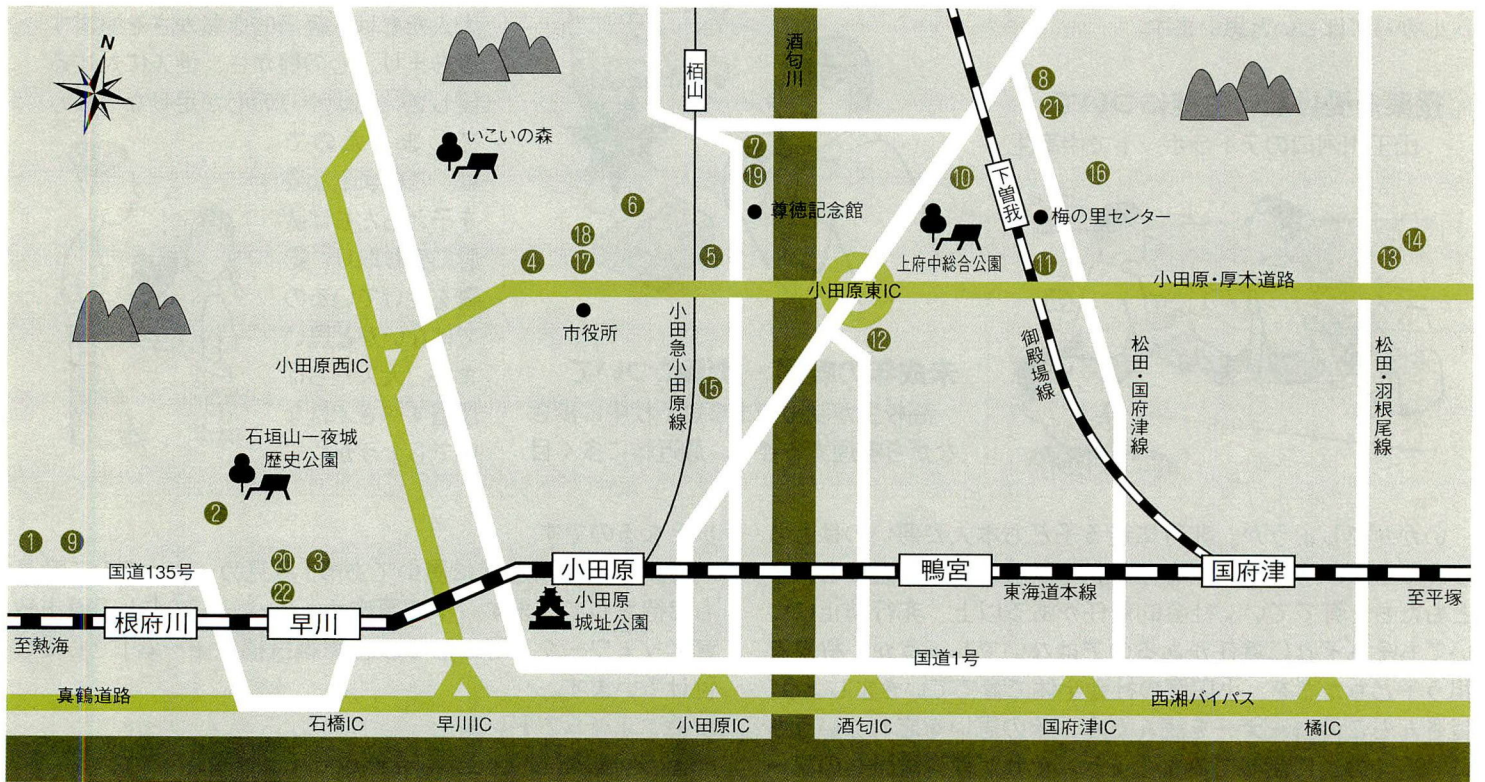
13 あらや農園



昭和39年からぶどう栽培を始め、主に直売と宅配をしています。宅配は、北は北海道から南は九州まで全国の方々に喜んでいただいています。また、平成3年から始めたぶどうのもぎ取りも好評で、シーズンになると連日多くのお客様に訪れていただいています。もぎ取りの入園料は無料で、取ったぶどうは1kg1,000円でご提供しています。皆様のお越しをお待ちしています。



小澤 清



各種かだん花の直売

④ 遠藤農園



年間を通じて、季節のかだん花（パンジー、葉ボタン、ペコニア、マリーゴールドなど）の直売を行っています。また、花だけでなくみかんやキウイ、茶の栽培も行っており、お客様に大変好評を得ています。ぜひご利用ください。



遠藤 國雄

ハウスミカン、プラムなどの販売

② 鳥居農園



主に果樹を中心とした経営を行っています。ハウスミカン、プラム（大石早生、ソルダム、太陽）、キウイ、梅などを生産しています。販売形態は、ジョイファーム小田原（☎425571）での販売と一部直売も行っています。これからの時期（8月から9月）は、ハウスミカンがおすすめです。おいしいですよ。



鳥居 啓宣

番号	農家	住所	電話番号	直売	宅配	主な農作物
①	山室 光正	江之浦350	29-0334	○	○	みかん、オレンジ各種
②	星が山コテージ	根府川592	28-1122	○		みかん、オレンジ
③	一夜城夢ひろば	早川(石垣山一夜城址前)	22-1675	○		みかん、野菜
④	遠藤 國雄	久野1750	34-9183	○	○	キウイ、花、みかん、茶
⑤	中嶋 利充	堀之内152	36-0126	○	○	メロン、梨、イチゴ
⑥	山崎 保	飯田岡611	34-1022	○	○	メロン、イチゴ
⑦	水野農園	鬼柳62	36-6334	○	○	梨、米
⑧	ローズルーム	上曾我1943-1	42-8711	○	○	花、コサージュ、ドライフラワー
⑨	高橋橘蜂園	江之浦314	29-0653	○	○	みかん、はちみつ
⑩	西山 利一	東大友31	42-2345	○	○	梨、みかん
⑪	小田原牧場アイス工房	曾我別所194-12	42-6632	○	○	アイスクリーム、牛乳
⑫	ふれあい直売所	飯泉1167	47-4292	○	○	梨、野菜
⑬	あらや農園	小竹1664	43-0597	○	○	ぶどう
⑭	小澤果樹園	小竹260	43-0725	○	○	みかん、梨、ぶどう
⑮	磯崎 藤一	多古372	34-1097	○		野菜
⑯	磯崎 由広	曾我別所562	42-0206	○		みかん、ハウスイチゴ、梅
⑰	田中 重治	久野2398	34-2788	○	○	キウイ、ハウスミカン、茶
⑱	田中 康介	久野2458	35-4324	○	○	茶、キウイ
⑲	竹井農園	栢山961	36-0912	○	○	みかん、梨、ぶどう
⑳	鈴木 美伸	早川3-7-9	22-9486	○	○	梨、いちじく、キウイ、みかん
㉑	鳥居農園	上曾我1487	42-0238	○		ハウスミカン、すもも、梅、キウイ
㉒	中井 英雄	石橋243	22-5628	○	○	みかん

身近にある 小田原の史跡

史跡を訪ね、シリーズで紹介します。

千代廃寺跡と小海開発記念碑

普段何気なく歩いている道の傍らにも、それぞれの地域に根ざした歴史の証である史跡があります。第1回目は、千代廃寺跡と小海開発記念碑を訪ねてみました。

問文化財保護課 ☎ 33 17 17

今回訪ねていただいたのは、史跡巡りが趣味という山口久美子さん（扇町）と本多悦子さん（小八幡）。

「あら、こんな所にあるの。いつも車で通っているのに知らなかったわ。」上府中駐在所から歩いて約2分。幹線道路から階段を少し上がったところに、千代廃寺跡があります。台の塚と

呼ばれる忠魂碑のある一帯がその中心地といわれています。「高い建物がなければ、ここから足柄平野が一望できたのですね。」と、当時の小田原を少し想像させてくれる場所です。

千代廃寺の研究は1920年代から始まり、さまざまな意見が出されましたが、「7世紀末から8世紀前半の時期に大規模な寺院が創建された」というのが、一致した見解となっています。たびたびの発掘調査の結果、広い範囲から木簡や墨書土器をはじめさまざまな遺物が発見され、徐々に遺跡の実体が明らかに、この地域には足柄平野において高い文化生活圏があったと考えられています。

次に訪れた史跡は「小海開発記念碑」です。千代廃寺から歩いて約10分、三島神社の鳥居の脇にあります。天保

8年（1837）の小海耕地開発記念のもので、昔は耕地南側水路沿いの土手にあったものを移されたといわれています。

小海地域一帯の湿地を埋め立てる工事の指導にあたったのは、二宮尊徳の弟子で小田原藩の地方役人、山崎金五右衛門で、記念碑の碑文も金五右衛門が書いたものといわれています。この事業では多くの土地の人が駆り出されましたが、その結果8町歩（約8万㎡）もの良田が開発されました。

「千代に国分寺跡があったのではないかと何かの本で読んでから、一度行ってみたいと思っていました。今回はそんな機会に恵まれて本当に良かったです。階段を上りその地に立つたとき、周りより小高く地理的に見晴らしがいいので、当時、重要な何かがあったとしても不思議ではない、と思います。もう少しわかりやすくなっているとうれしいのですが…。」

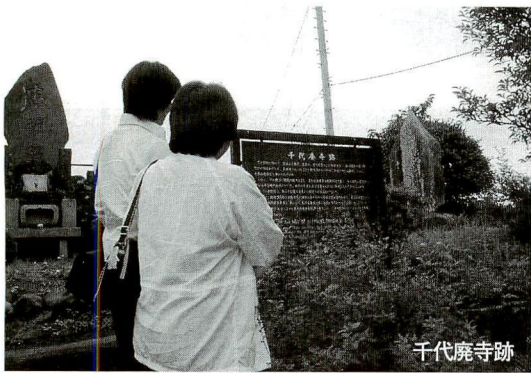
記念碑はいろいろな事業をした後は必ずと言っていいほど建てるものです。この碑の文字は流れるように滑らかで、あまり意味がわからなくても、気持ちの和やかになりました」



山口さん(左)、本多さん(右)



千代廃寺からの出土品



千代廃寺跡

好評発売中！

「身近にある小田原の史跡
～川東版～」(500円)
「小田原の文化財」(1,000円)

発売先

市役所4階行政情報センター
小田原城本丸売店 ほか

問公益事業協会 ☎ 23-4470



1945年8月9日 午前11時2分
時計とともに7万4千人の時間が止まった

過去の戦争惨禍を繰り返すことなく、平和を守り、恒久的平和を実現するため、本市は平成5年10月に「小田原市平和都市宣言」を行いました。

原爆が投下されてから、すでに57年が経過します。原爆が一瞬にして都市を破滅させ、幾多の尊い生命を奪い、かつ、命をとりとめた被爆者に生涯いやすことのできない心と体の傷跡を残させたことは、決して忘れてはなりません。

戦争の怖さ、原爆の恐ろしさを永く後代まで語り継ぐとともに、歴史に学び、核兵器のない恒久平和の世界を築くため、この度、長崎市と財団法人長崎平和推進協会の協力を得て、「長崎原爆被災展」を開きます。

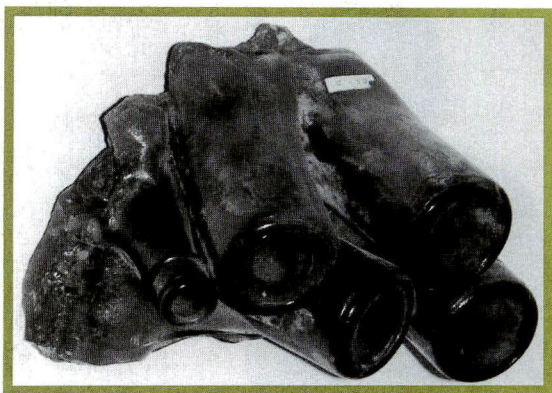
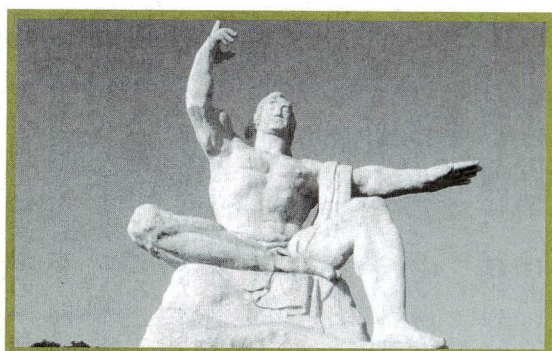
ぜひ、この「長崎原爆被災展」にお越しいただき、もう一度、平和の大切さをお考えください。



原爆死没者のめい福と世界恒久平和の実現を祈念するため、1分間の黙とうを捧げてください。
広島：8月6日(火)8:15 長崎：8月9日(金)11:02

長崎原爆被災展

岡行政総務課 33-1291



日時 **10月28日(月)～11月2日(土)**
8:30～17:00

場所 小田原市役所2階展示広報ロビー
ほか

主催：小田原市、長崎市、(財)長崎平和推進協会
入場無料

◆原爆被災体験講話会

長崎で被爆された方々に、被爆当時の様子などをお話していただきます。

日時 10月29日(火)10:00～

場所 中央公民館2階大ホール

※映画上映も行います。

◆被災資料の展示

被災物品・写真・絵などの資料展示やビデオを放映します。

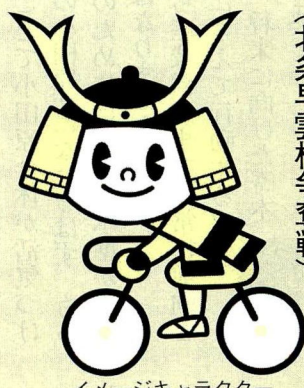
日時 10月28日(月)～11月2日(土)8:30～17:00
(29日(火)は19:00まで)

場所 市役所2階展示広報ロビー

8月15日は戦没者を追悼し、平和を祈念する日です。正午には1分間の黙とうを。☎福祉総務課 33-1861

小田原競輪場は、昭和24年に全国で9番目に開設しました。競輪事業の収益金は開設以来平成12年度まで合わせて約840億円を一般会計へ繰り出し、平成13年度においても5億5,000万円を繰り出しています。この収益金は社会福祉の充実、学校の建設、道路の整備、環境の保護など、さまざまな形で市民の皆さんの生活の向上に役立てています。

また、競輪開催時には、臨時従業員約5百数十名を直接雇用しているほか、警備、清掃の委託などの間接雇用を含め1,000人以上の方が働いており、雇用を確保しています。さらに、ファンサービス品にできるだけ地場産品を活用することで地域経済の発展にも貢献しています。これからも小田原競輪をよろしく願います。



イメージキャラクター
輪太郎くん

8月16日(金)～19日(月)
小田原競輪開設53周年記念競輪
(北条早雲杯争奪戦)

さまざまな形で
市民に関わって53年
**記念競輪を
開催します**

小田原に伝わる木の文化

木製品フェア2002

準備中!

10月18日(金)〜20日(日)・小田原アリーナ

産業政策課 ☎ 331515

伝統工芸士って、 知ってる?

小田原地域では、箱根寄木細工と小田原漆器が伝統的工芸品に指定されています。

「伝統工芸士」は、伝統的工芸品を高度な技術で長期にわたり作り続ける人を対象に、知識と実技の試験を行い、その合格者に付与するもので、まさに「称号」の名にふさわしいものです。ここでは、昨年度新たに寄木細工の伝統工芸士になられた2人をご紹介します。

今回ご紹介した二人の伝統工芸士をはじめ、小田原・箱根地域の木製品業界の皆さんは、この秋に行われる木製品フェア2002の「全国クラフトコンペ」での最優秀賞獲得に向けて、それぞれのもてる技を最大限に生かしたオリジナル作品づくりに取り組んでいるところです。

無垢材にこだわり、
世界に通用する作品をめざします

伝統工芸士 金指勝悦さん

正月の箱根駅伝で使われる寄木のトロフィーをご存知ですか。実は、箱根の煙宿に工房とギャラリーを持つ金指さんの作品なのです。

金指さんは30歳のとき、先輩から「煙宿は寄木発祥の地なのでその技術を教えてあげる」と言われ、この世界に入りました。

当時、寄木細工は衰退の一途をたどっていて、金指さんも木工関係の別の仕事に就いていましたが、副業でおみやげ用の寄木を作ったところ、「これが売れて、イケると直感しました」とか。

金指さんがこだわるのは無垢の寄木。

「昔は膠で接着力が弱かったから、無垢では無理だったけど、今は強い接着剤があるから、丈夫に作れます。貴重な材料をふんだんに使うことによる重厚感と深みが気に入っています」

そんな金指さんは、寄木のこれからについて「昔の伝統を受け継いでいるだけでは進歩はありません。業界全体で



後継者を育成していきながら、単に箱根の観光みやげにとどまるのではなく、より高いレベルを目指してがんばりたいと思います。木製品は長く使えば使うほど愛着が湧きますので、ぜひ大事にしてください。使っていて不具合が出たら、いつでも修理しますよ」と語ってくれました。

培ってきた技術への絶対の自信と誇り、そして寄木に対する静かな情熱が、「箱根の寄木」を「世界のヨセギ」へと押し上げる日は、近いのではないのでしょうか。

スペインの寄木文化との交流で
あらたな創作意欲がわきます

伝統工芸士 露木清勝さん

早川に寄木細工の街かど博物館を構える露木さん。

「自分のやっている仕事は、どこかで情報として受け止めてもらえるところがあると思います。小田原の人でも寄木のことは知っているようで知らない部分が多いと思うので、小学校に出向いて寄木教室もしています。そうしたことを通じて、木の良さ、ものをつくる楽しさが少しでもわかってもらえるとうれしいです」。

小中高生を対象に、夢の木製品デザインを公募するモクチャートの企画運営にも、「自分が勉強になるから」と積極的に参加しています。「若い人たちには、違った感性で新しいものを作ってほしい。さまざまな個性がぶつかりあって、いろいろなものが出来ればいいと思います」

最近では、スペインの寄木文化との交流が露木さんに新たな創作意欲を与えています。

「寄木を作る心意気はスペインも日本も同じ。寄木の中に銀を組み込む手法など、影響を受ける部分はいっぱいあります」。



そんな露木さんの夢はズバリ「世界の木工都市・小田原」。

「いわゆる職人気質と経済的な成功は相反するので両立はなかなか難しいです。しかし、新しく、かつ格好いいものを作ることで小田原全体が活気づけば、『世界の小田原』になれるはず。もちろん、そのためには全体の水準が上がらなくてはなりません」。

教育から産業構造まで、常に前向きで積極的に考えて行動する露木さんに、将来に向けた寄木の可能性を感じました。

なりわい交流館
から
緊急告知



「かき氷」始めました！
この夏、かき氷の販売を始めました。
ひとときの「涼」をお楽しみください。
価格 200円
種類 メロン、イチゴの2種類



小田原ちようちん製作ボランティアの会
は、小田原の伝統工芸品である小田原
ちようちんを末永く伝えていこうと、毎
年5月から7月にかけて市内の全小学校
をまわり、手作りちようちんの製作指導

小田原ちようちん製作ボランティアの会
会長 飯塚正浩さん



↑飯塚会長

をしています。その
総数は今年で3万個
を超えました。
「この活動を始めて
から10年が経ちまし
た。この先、指導した
子どもたちの中から後継者たち
が出て来てくれればうれしいですね。
毎月第4日曜日は手作りちようちんの
製作体験をしています。これから、小
田原ちようちんの製作を通して数多くの
人たちに小田原の良さを発信できればと
思います」と飯塚さ
んは話してくれま
した。



問 産業政策課
☎ 331519

なりわい交流館に
集う人たち

No.1



女性だけのチャレンジショップ

『小田原TMOミュージアムショップ』

おかげさまで1周年！！

TMO（中心市街地活性化）事業の一環として、昨年8月にオープンした女性オーナーたちの店『小田原TMOミュージアムショップ』が、1周年を迎えました。

- ①ここでしか手に入らないこだわり商品の提供
- ②小田原の街まるごとミュージアム
- ③もてなしの心を大切にするミュージアムショップ

これら3つを柱に、みんなで力をあ

わせてお客様をお迎えしているそうです。特にお客様に気持ちよくご来店していただけるよう、ショップ内を季節感あふれる雰囲気にしたり、クリスマスイベントによる抽選会の実施や人力車のサービスなど、小田原の街なかに女性パワーを提供しています。1店舗あたり3坪という限られたスペースですが、今後も個性あふれるこだわり商品を提供していきたい、と力強く話してくれました。



店舗一覧

店舗名	取扱商品
Peace★Piece（ピースピース）	子供服
ガラスの城	手作りガラス
P.D.（ピーディー）	ギャラリーアートショップ
Q.t.（キューティー）	バラエティストアー
LADY BUG☆STAR（レディバグスター）	古着・雑貨
レザーペンギンズ	革小物
Green Field（グリーンフィールド）	カントリー雑貨
ネクタイ工房？	手作りネクタイ
Seven Hills（セブンヒルズ）	インテリアギャラリー
古布美（こふみ）	和小物

SHOP Infomation

時間 10:00～19:00 毎週火曜定休
場所 小田原市栄町2-9-46
オービックビル1F
（小田原駅東口から徒歩約5分）
問 ☎22-7180（事務局）
☎23-1811（小田原商工会議所）



※今ならオリジナルしおりを無料配布中！

「波」

山本有三

岩波書店

行介は大抵家に引込んでゐたが、ある日散歩がてら御幸濱に行つて見た。酷暑が続いたせゐか、濱は大變な人出だつた。色ガラスの破片をそこら中に撒き散らしたやうに、砂地も海も本来の色を失つて、様々な、どきつい色で埋つてゐた。

眼の悪い行介にはぎら／＼して何處に駿がゐるのかとても見分けがつかなくなつた。

(略)

下駄がどぐりと砂にめり込んだ。二人はいづか御幸濱に来てゐた。併し海上は色の褪めた金巾を垂らしたやうに、ぼやつとした靄が一面に立ちこめてゐた。

「今日はあいにくのお天気で。晴れた日だと、この邊に大島が見えるんですけれど。…それから熱海はこの見當になります。」

(略)

「(略)この間ある人から、そんなにやきもきするのは、波に吠える犬のやうなものだつていはれましたが、あるいはそんなものかもしれない。」

「さあ、そんなに無意味なことではせうか。わたくしにはさうとはかりは思へませんわ。」

「僕も自分を徒に吠える犬だと思ひません。併し押寄せて来る波は、どうすることも出来ないやないでせうか。」

(略)

「わたくしにはよく分りませんが、岸に打寄せてゐる波がいつか大きな巖に孔を穿つやうに、たゞ同じ事を繰返してゐるとしか見えないやうな事の中にも、何か深いものがあるのではないでせうか。」

(後略)



作者の山本有三(1887～1974)は、大正から昭和にかけて活躍した作家です。1914年(大正3年)豊島予志雄らと第3次「新思潮」を創刊します。劇作家として活動を始め、「生命の冠」「嬰兒殺し」(大正8年)など繰り返し上演される作品を残しました。

大正15年「生きとし生くるもの」を朝日新聞に連載し、以後平易な文体でいかに生きるべきかを追求した長編小説を新聞に発表して多くの読者をとらえました。「小説は人生の教科書」という言葉に示されているように、有三の作品には、芸術を人生の規範にしようとする「大正教養主義」が強くうかがえ、そこから感じられる誠実さが歓迎されたといわれています。

今回ご紹介した「波」(昭和3年)のほか「女の一生」(昭和7)、そして「路傍の石」(昭和12年)によつて国民的作家となりました。また、国語問題にも尽力し、「当用漢字」の採用に大きな足跡を残しました。さらに、昭和22年には参議院議員に当選、40年には文化勲章を受賞するなど、社会活動を通じて文化の向上に努めました。本作品は、「妻」「父」「子」の三部からなっています。主人公の教師の妻が過ちを犯し、その後子供(駿)を残して死んでしまします。主人公は、その子が本当に自分の子供かどうかという悩みを抱えながら育てます。夫婦や親子の愛のありかたや意味に真正面から取り組み、人の成長、結婚、子育てといった営みの繰り返しを、寄せては返す波にたとえて、それが作品名になっています。

御幸の浜、早川、国府津、そして海岸から望む大島や熱海と言った地名が、第三部の後半に登場します。



○今月は、日比野正男さん(寿町)からいただいたお手紙をもとに構成しました。

このコーナーでは、映画・絵画・写真・小説・詩などの作品に登場する小田原を紹介しています。小田原が扱われている作品をご存じでしたら、市広報広聴室までお知らせください。

☎33-1261

輝く小田原人

宇宙の神秘をガラスに込めるアーティスト

吉本 雅塵さん

(小田原出身)

宇宙からの贈り物である「いん石」をガラスに織り込んで誕生した、全く類を見ないガラスアート。その世界を生み出した、若手アーティストの知られざる素顔に触れてみた。

たった一人の再出発

サラリーマンだった吉本さんは、自分のライフスタイルと仕事とが合わないことに悩んでいた。そんなとき偶然ガラスに出会った。透明なガラスに施す繊細な技に魅せられて「これしかない」と決断。創作ガラスに自分の生きる道を見出すことに。仕事を辞めて本格的にガラス作りの勉強を始めたいと父親に話したが、父親は反対し、以後は口を聞いてくれなくなった。半年後のクリスマス、仕事を辞めて荷物をまとめ、修業先の富山に一人旅立つことを決意。

早朝4時、重い荷物を持って玄関を出ると、そこに父親が立っていた。「頑張ってこい」。ずっと反対し続けた父親は、たった一言を告げるため寒空の下で息子を待っていた。半年ぶりに聞いた父親の一言。あふれる涙が止まらなかった。「俺は絶対にこの世界で頑張り返してやる」。心の中で何度も父親に誓いながら、朝露の中、車を走らせた。吉本さん26歳のときだった。

深く澄んだ神秘のガラス

吉本さんが作るのは、メテオグラ

スという新しいガラスだ。メテオとは「いん石」のことで、その名のとおり、いん石が練り込まれている。鉄いん石と言われる、地球上では手に入らない特別な金属を含んだメテオグラスは、室内の明かりでは薄褐色だが、太陽光に当てると赤みがある薄紫色に変化する。光が変化すると、ガラスも新たな輝きを映し出す。まさに宇宙の神秘が織りなす芸術だ。いん石を使ったガラスアートを作るのは日本ではもちろん世界でも吉本さんだけ。メテオグラスというネーミングも、吉本さんが命名した。

「もともと星空を眺めるのが好き。生命の根源である宇宙から受けるさまざまなイメージをガラスに表現して、その作品を見る人が何かを感じ取ってくれたならうれしい」。メテオグラスには不思議な魅力がある。それはまるで、夜空の星を眺めているときに宇宙に吸い込まれるような感じに似ている。

人が幸せになるような作品を

現在吉本さんは、松田町の寄の自宅兼アトリエに家族とともに暮らす。が、生まれ故郷でもあり、両親のい

る小田原にも特別な念がある。「小田原は城下町で独特な雰囲気があり、とても好きなまちです。そんな小田原でガラスを作ってみたいといつも考えています。毎年小さな個展は開いているんですよ。何かまたやってみたいですね」と意欲を燃やす。

「もし挫折しそうになったら、あのときの『頑張ってこい』という一言を思い出します。自分も父親になり、父親の気持ちがわかるようになりました。誰もが幸せを感じる作品を、どんな世に送り出していきたいですね」。自宅の窓から手を振る子どもたちを見ながら、照れたように笑った。



アトリエ



作品名：水月

富山ガラス造形研究所を卒業し、1994年日本クラフト展テーマ賞受賞を皮切りに注目を集め、英国ヴィクトリアアンドアルバート美術館に作品を収蔵。翌年ドイツミュンヘンに招待出品。1997年にメテオグラスを生み出す。以後各地で個展を開く。市内では毎年12月に飛鳥画廊で個展を開いている。現在、生命の星・地球博物館特別展「人と大地」でも作品を出展中(9月29日まで) 地球博物館 211515



を知りませんか。

このコーナーでは、各方面で活躍されている小田原にゆかりのある人物を探しています。

●●●の開発者は、小田原出身である。
●●●の代表者は、学生時代を小田原で過ごした。
●●●の受賞者は、小田原に住んでいる。
など、自薦他薦は問いません。
広報広聴室までお知らせください。☎33-1261
メールアドレス koho@city.odawara.kanagawa.jp

平成14年度 県・2市8町合同図上検討会



5月31日(金)、県西地域の2市8町と県が合同で担当者レベルの第1回図上検討会を梅の里センターで開きました。これは、切迫性が指摘されている神奈川県西部地震に備えて、応急対策を具体的に検討することで、県、市町、防災関係機関、各市町間の相互連携体制の強化を図るとともに、それぞれの地域防災計画や防災関係マニュアルの見直しに役立てようというものです。県と県西地域2市8町が合同で具体的な応急対策を検討するのは、初めての試みです。

当日は、各機関から応急対策に関わる担当職員約100人が参加し、事前に各市町が県西部地震を想定して検討した重点対策や、県への応援要請事項などの応急対策の結果が発表されました。

この発表を経て、各機関ごとにさらに検討・調整を重ね、8月に第2回の検討会を開催し、各市町の応援要請に対する県の対応や県が主体的に実施する応急対策などが発表される予定です。

小田原 彩 時記

毎年着実にその輪を広げるもの。将来に向けて新たに取り組みを始めたもの。安全で快適なまちづくりは、市民の皆さんと行政の共通の願いです。

山王川・久野川 一斉清掃



6月8日(土)、山王川・久野川の一斉清掃が行われました。この清掃活動は、流域の5地区自治会連合会で組織する「山王川・久野川を美しく会」が主催となつて毎年開いています。蜚が飛び、鮎や鯉などが泳ぐ自然豊かな河川を守りながら、周辺住民の環境美化意識の高揚にも大きな成果を挙げています。

当日は、流域の自治会や企業、地元小・中学生、県や市の関係者など約1,000人が参加して、草刈りや、可燃ごみ7,100kg、不燃ごみ1,300kg、計8,400kgのごみを収集しました。

流域の人たちだけでなく、訪れる人たちやそこにすむさまざまな生き物にとってもかけがえのない「川」。いつもきれいであつてほしいものです。



普通救命講習会



6月15日(土)、マロニエで小田原市・湯河原町・箱根町、足柄消防組合の各消防本部が共同で開催した「普通救命講習会」には、市内外から約70人の受講者が集まりました。真剣な面持ちで講師となる消防職員から人工呼吸や心臓マッサージの説明を受け、心肺蘇生法などの応急手当実技を行い、全員に修了証が交付されました。

呼吸や心臓が止まった人の命を救うには、最初の5分がとて重要。『普通救命講習会』では、救急車が到着するまでのわずかな時間にその場に居合わせた人がすべき心肺蘇生法などの応急手当技能を修得します。

平成5年度から開いている救命講習会の延べ受講者は約7,500人。いざ現場に居合わせたとき、勇気をもって「救命リレー」ができる知識を持つ人がひとりでも増えることを期待します。



心におみやげ、
見つけて小田原。